

# 北海道新聞

発行所  
北海道新聞社

郵便番号 060-8711  
札幌市中央区大通西3-6  
電話 011(221)2111  
©北海道新聞社 2005

## 速報

インターネットで道新ニュース  
[www.hokkaido-np.co.jp](http://www.hokkaido-np.co.jp)

ご購入申し込みは  
0120-464-104



「もっと北海道」は、北海道の魅力を再発見し、北海道の元気を道内外に発信する北海道新聞社からのメッセージです。21世紀を迎えた2001年に採用し、元気なふるさとづくりや自然・環境の保護などを柱として、紙面やイベントに活用しています。

### 読者の支持不可欠

### パネリスト5人が討論

「第七回全国新聞販売フォーラム」(道新会連合会、北海道新聞社主催)が二十四日、札幌市中央区の札幌パークホテルで開かれた。全国から七十の新聞社の販売関係者が集まり、「新時代 求められるもの めざすもの」をテーマに、新聞販売の未来について熱心に話し合った。

北海道での開催は初め行する勇気を育みたい」と。全国紙や地方紙の販と歓迎のあいさつ。菊池売担当のほか、新聞配 育夫北海道新聞社代表取締役の最前線にいる新聞販売 縮役社長が「新しい時代 売所長ら約千五百十人が にふさわしい貴重な提言 参加した。 をいただき、札幌から明

開会式で、大会長の熊 敏彦道新会連合会会長は るい希望を発信したい」と述べて。続いて東北大学教授で医学博士の川島 隆太氏が記念講演した。



パネルディスカッションでは、川島氏に加え、フュージョン代表取締役の花井秀勝氏、札幌丘珠高校教諭の毛利禎晴氏、熊本日新聞社常務取締役の酒井欽司氏、オフィス・タウンクリエイト代表の成田眞利子氏の五氏が北海道新聞大成販売所(旭川)の丸谷昌之所長のコーディネートで討論。

## 新時代 求められるもの めざすもの

メディア大競争時代の新聞のあるべき姿を熱く語ったパネルディスカッション



# 新聞販売の未来考える

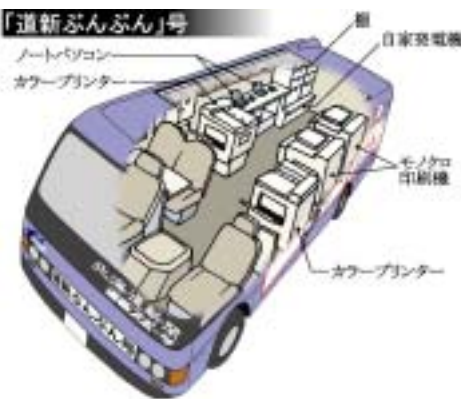
北海道新聞社が初めて製作した多目的取材・宣伝車「道新ぶんぶん」号は、誕生から9カ月、その名の通り各地をブンブン駆け回り、号外や記念新聞を読者に届けてきた。プリンターやパソコンのほか、電気の止まった被災地でも活動できるよう発電機を搭載した。遠くは新潟県中越地震にも派遣され、「ここだけ新聞」として避難住民に明るい話題を提供した。

昨年8月に誕生したぶんぶん号は、初年度の7カ月間で22回出動し、距離にして約6000キロを走り回った。4つの目的として①編集号外の発行②NIE活動の支援③主催事業の宣伝やイベント新聞の発行④被災地での取材指揮や生活情報の発行一を掲げ



小型バスを改造した「道新ぶんぶん」号。左側面にコンサドーレ札幌の「ドレくん」、右側面は北海道日本ハム・ファイターズの「B・Bくん」をあしらひ、大きく「Doshin(道新)」の文字が躍る。

# 号外や記念新聞を発行



これに基づき、①では休刊日に行われた市長選の号外や、プロ野球スト号外を発行し、②では道新社員を派遣して開催する出前講座で「走るNIE」を実現、③では北海道マラソンなど各地のイベント会場で特別新聞を製作、④では中越地震で貴重な経験を待た。

ぶんぶん号は、雪道でも完全に走行できる四輪駆動の小型バスを改造して定員6人とし、発電機は出力5キロワットで連続16時間稼働する。カラープリンター、モノクロ印刷機を各2台搭載し、カラー紙面ならA4判を最大で毎時2000部、モノクロならA3判1万2000部製作できる。

3月に再改造を実施し、車外作業用のロール式防水タープ(テント)やスピーカーなどを取り付けた。今後多くのお会いを求め、全道を駆け回る。

## 中越地震でも奔走

### 北海道新聞社の本

北海道新聞社は、さまざまな出版物を発行している。雄大な自然や北海道ゆかりの作家からノンフィクションまで、幅広いテーマを扱っている。

**こんな夜更けにバナナかよ〜筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち**

渡辺 一史

人工呼吸器を着けながら自由を費した重度身体障害者と、生きる手応えを求めて介助に通うボランティアたちとの交流を、障害者自立運動の歩みも交えて描いた作品。第三十五回大宅壮一ノンフィクション賞、第二十五回講談社ノンフィクション賞をダブル受賞した。四六判・464頁、1890円。



**美瑛・富良野**

高橋 真澄

パッチワークの路、パノラマロードをはじめ、十勝岳山ろくの青い流れやラベンダー畑など、美瑛から富良野に広がる丘を鮮やかな写真と詳細

**「水点」を旅する**

三浦 綾子・三浦綾子記念文学館編著

出版から四十年を迎えた「水点」。三浦綾子自身が残した言葉を中心に、執筆の動機や夫・光世氏の「水点」にまつわる思い出、評論家による作品の背景などをまとめた。三浦綾子ファンには見逃せない。

**お菓子のくに 帯広・十勝**

北海道新聞帯広支社報道部編

帯広を代表する六花亭や柳月の独自商法をはじめ、こだわりの職人たち、街角の逸品、お菓子づくりを生み出す十勝野の気候、自然環境など、菓子王国・十勝を紹介。A5判・110頁、1365円。



**知床讃歌**

北海道新聞社編・文/立松和平

迫力ある写真と、知床の地をこよなく愛する立松和平氏の文をそのまま収録し、北海道地図で案内する。A5判・112頁、1260円。



道のダイナミックな自然を歌い上げる。B5判・124頁、2415円。



価格はすべて税込み。全国の書店で取り寄せできるほか、電話やファクス、ハガキ、Eメールでも注文できる。名前、郵便番号、住所、電話番号、書名、注文冊数を記入の上、〒060・8711 (住所不要) 北海道新聞社出版営業部 ☎011・210・5744、ファクス011・232・1630 pubeigyo@hokkaido-np.co.jpへ注文を(道外のみ注文1回につき代引手数料210円)。インターネット(<http://www.aurora-net.or.jp/doshin/book>)でも注文できる。

問い合わせ申し込み